

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
柔道整復科											
固定方法											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必	種別	講義	時間数	15	単位	1
担当教員	難波 英樹			実務 経験	有	職種	柔道整復師				
授業概要											
柔道整復師の施術の方法である固定法の理論を理解し、包帯の走行を一つ一つ理解していく。また、軟性固定材料などを用いた場合にこういった包帯の方法を使用した方が最適なのかを習得することが目的である。											
到達目標											
怪我一つ一つに対してどの固定法を選択していくか、どの固定材料を選択していくかという方法論を習得することを到達目標とする。											
授業方法											
この固定方法とは柔道整復師の行う施術法の中に含まれ、患部の安静を図る、再転位を防止するなどの手段の選択と固定を実施する方法、太さの違う場所に巻くためにどのような方法選択すればきれいにきつ過ぎず、ゆる過ぎず固定ができるかを理解する学問である。授業形態は、主に座学中心で固定方法では包帯に関しての基礎知識から固定材料の基礎知識を学び、基本包帯法の基礎となる技術をどのように選択していくかを習得する。											
成績評価方法											
試験と課題を総合的に評価する。											
履修上の注意											
学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
教科書（包帯固定学 一般社団法人全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。											
回数	授業計画										
第1回	授業概要の説明 巻軸包帯について										
第2回	巻き方と注意事項 固定の目的										
第3回	固定の範囲 固定の肢位										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
柔道整復科	
固定方法	
第4回	基本包帯法(1環行帯、螺旋帯)
第5回	基本包帯法(2蛇行帯、折転帯)
第6回	基本包帯法(3亀甲帯)
第7回	基本包帯法(4麦穂帯)
第8回	振り返り(1)
第9回	部位での基本包帯法(1)
第10回	部位での基本包帯法(2)
第11回	部位での基本包帯法(3)
第12回	軟性固定材料(1)
第13回	軟性固定材料(2)
第14回	硬性固定材料
第15回	振り返り(2)